

症状がない癌

近年、年齢と共に増える男性の癌に前立腺癌があります。2017年の罹患率は男性の癌のなかで3位の15%を占め、2020年には胃癌を抜きトップになると予測されています。原因は定かではありませんが、喫煙者、高蛋白・高脂肪食の方にはこの前立腺癌の発生率が高くなっています。

前立腺癌は症状がほとんど無いのが特徴です。よく症状として言われていた「尿が出にくくなる」のは癌ではなく前立腺肥大の方に多い症状です。タバコを吸っている方、家族内に前立腺癌の方がいる場合、そして50歳以上の方には定期的に腫瘍マーカーであるPSAの測定をおすすめします。PSAとは前立腺癌から出る持前の癌産生物質癌マーカーなのです。数mlの血液検査で可能です。正常は4単位 (ng/ml) 以下です。

前立腺とは

前立腺とは膀胱の下にあり、お尻とペニスの間に鎮座しているクルミのような形をしている臓器で、精液の一部となる前立腺液を出し、精子の運動や保護に携わっています。尿道を取り巻いているので、肥大すると尿道を狭めるため尿の勢いが弱くなってきます。

一般に臓器は老化すると小さく萎縮するものですが、前立腺はなぜか大きくなってきます。そして時に癌化するので厄介なのです。男性独自の宿命でもあります。

PSAを測定する時の心構え

自費になりますが泌尿器科だけでなく一般の内科でも測定は可能です。人間ドックのオプションで測定してくれるところもあります。

以下に挙げるようにPSAを変動させる因子もありますので、測定の前はちょっと気をつけてください。

- ① 自転車には乗らないで採血してください。サドルで前立腺が刺激されて、高く出る場合があります。
- ② 前立腺の炎症の時や前立腺肥大でも若干増加します。

PSAが高いと言われたら

さて、PSAの値が4以上の時はまずは泌尿器系のお医者さんに行って相談されるのが無難です。今後の方針など相談してください。事前に以下の心構えを知っておくと理解しやすいと思います。

- ① PSAには質があります。「フリーのPSA」と蛋白と結合した「トータルPSA」があり、その比(F/T比)で悪性度が高いか低いかがわかります。25%以下と低いほうが悪いのです。今後の治療の目安になります。
- ② MRI撮影で大きさや形状がわかります。これで癌が前立腺の中に収まっているか外まで広がっているかがわかります。治療方針につながります。
- ③ 直腸診：お尻よりお医者さんに指で前立腺が固いかどうか診てもらいます。
- ④ バイオプシー検査は精密検査になります。注射針で直接前立腺の組織をとり、顕微鏡で細胞を調べます。1～2泊の検査入院をおすすめします。

実はこの癌、その成長は本来非常にゆっくりなので、発見時の年齢により治療の選択肢も変わってきます。運がいいと生きている間、なんら症状もなく、そのまま冥土までもっていく「天寿癌」(天寿が全うできる癌)である可能性もあります。しかし運が悪いと、時にリンパ節から骨に転移する癌でもあり、こうなると骨破壊が起き、麻薬を使わなければならないほどの痛みを伴いますので、やはり若い人の癌は早く治しておくに限ると考えています。



ふくお・よしひろ (一財)博慈会老人病研究所所長。少子高齢社会における未病ケアシステムの構築を提唱している。21世紀医療課題委員会代表。著書に『臨床判断ハンドブック』『見た目で見えがわかる』『未病息災』『セルフ・メディカ』など。